

森づくりで協定締結 広尾町と北央道路工業



協定書にサインを交わした澤口社長と村瀬町長(左から)

【広尾】町と北央道路工業(札幌市、澤口「朗社長」)は22日、「サンタの森づくりパートナーズ基本協定」を締結した。今年度の町発注工事において、同社工場から出荷したアスファルト混合物運搬時に発生する二酸化炭素(CO₂)を町内森林で吸収する。

町有林が吸収するCO₂量を有償で売却する「J-VER(オフセット・クレジット)制度」を活用した取り組みで、同町では2例目。

同社は5年ほど前から環境マネジメントシステム「ISO14001」を採用し、入れるなど積極的に環境保全活動を実施している。今回は同社が町内で仕事を請け負っている縁で実現した。建設会社で同制度を活用するのは珍しいという。

町は混合物1ト当たり63円を売却する。過去の実績が3000〜4000トであることから、総額は19万〜25万円程度になる見込み。

み。町は代金を町有林の森林整備費に充て、サンタの森づくりに役立てる。

町コミュニティセンターで開かれた締結式では村瀬優町長と澤口社長が協定書にサインを交わした。澤口社長は「環境保全に取り組み姿勢を示していきたい」と述べた。村瀬町長は「よい環境のある社会づくりに向けて、先導役を担っていることに敬意を表する。末永い関係を築いていきたい」と歓迎した。(関根弘貴)

中札内で救命講習

緊急事態の対処を学ぶ

きらきら保育園

三角巾を使った応急処置法を学ぶ保育士



【中札内】村内の保育士を対象にした救命講習会が19日、きらきら保育園で行われた。

保護者が安心して子供たちを預けることができるよう、緊急事態への備えを徹底。きらきら保育園と上札内保育所、子育て支援センターの保育士22人が参加した。

南十勝消防事務組合中札内支署の尾山純輝消防士と井尻雄也消防士から、食物アレルギー

のアナフィラキシーショックの正しい知識や窒息したときの対処法、三角巾を使った止血法など、実技を交えながら教わった。「4分以上継続するけいれん発作は、酸欠による重篤が考えられる」という話に、参加した保育士たちは、子供たちを預かる責任の重さを改めて実感していた。

きらきら保育園の宮澤薫主任は「簡単にできる応急処置法はすぐ取り入れた」と話し、尾山消防士は「緊急時には遠慮せず救急を要してほしい」と呼び掛けていた。(小寺泰介)



中札内 ペケレ山登山楽しむ

署員メッセージ入りたすき

高齢者ら活用を

尾協 署交

【広尾】広尾署(岩佐敏朗署長)と広尾地区交通安全協会(天野利成会長)はオリジナルメッセージ付き交通安全たすきを製作した。全署員32人で手書きしたイラスト入りプラスチック板を反射材付きたすきに貼り付けたもので、「交通事故ゼロ」を願う署員の心を込めている。町内5つの「寿の家」に備え付けたり、薄暮時間(17時〜19時)に街中を歩いている高齢者に配布したりすることで活用を呼び掛けている。

秋の全国交通安全運動(21〜30日)に合わせた初の試み。薄暮になる時間が

早まっているこの時期に取り組むことで、高齢者の事故防止を図る。

同署では以前から老人クラブなどに反射材などを配布し、交通安全を呼び掛けている。今回は「無事故を

願う気持ちを今まで以上に高齢者の皆さんに届けよう」と、プラスチック板にメッセージを手書きした。同署地域・交通課の内田菜摘子巡査のアイデア。

メッセージ付きプラスチック板(縦、横ともに4枚)は8月下旬から、半月かけて200個仕上げた。全署員態勢で無事故を願う心を込めて200通りのイラストを描き、「じこをなくしましょう!」などのメッセージを書き込んでいた。親しみやすくすることで、普段使いたくなくしている。

たすきは各「寿の家」に20本ずつ配布。手作り看板も設置し、活用を呼び掛けている。22日には薄暮時間に市街地をパトロールし、高齢者に直接手渡した。歩行者への配布は今後も継続する考え。

反射材を身に付けていれば、薄暗くなつてからもドライバーが歩行者の存在を認知しやすく、事故防止につながると思われる。同署は「肩に掛けることはもちろん、自転車やかばんに結び付けるなどしてほしい」としている。(関根弘貴)

出動式で十三気高揚 広尾署

【広尾】広尾署は22日、秋の全国交通安全運動出動式を行い、事故抑止に向けた取り組みを強化しようと士気を高めた。

同署員の他、村瀬優町長、広尾地区交通安全協会の天野利成会長、広尾地区安全運転管理者協会の大庭克彦会長ら約40人が出席した。

岩佐敏朗署長は前日に大樹町内で死亡事故が発生していることを踏まえ、「住民の交通安全意識を高める

【中札内】村内で工事を実施している建設会社アスワン(幕別町札内青葉町308)の社員が18日、南十勝消防事務組合中札内支署(米山弘支署長)で救命入門コースを受講して事故への備え

本番さながら 事故への備え アスワン

【中札内】村内で工事を実施している建設会社アスワン(幕別町札内青葉町308)の社員が18日、南十勝消防事務組合中札内支署(米山弘支署長)で救命入門コースを受講して事故への備えを徹底した。

現場には自動体外式除細動器(AED)を設置しているが、講習を受けたことがない社員もおり「安全意識の高場にもつながれば」(川口哲哉土木部長代理)と10人が参加した。

救命救急士の山澤康宏主幹ら職員2人の指導の下、胸骨圧迫とAEDの取り扱い方を学んだ後、工事現場で作業中に意識が消失した場面などを想定し、救急車が到着するまでの救命処置方法を訓練した。

参加者は本番さながらの緊迫した雰囲気でも懸命に力を込めて胸骨圧迫などを施した。

山澤主幹は「名前や年齢、持っている病気など、分かる範囲で到着に教えてあげていた。川口代理は「細かく、めめて徹底でき

大樹 釣りを通して習性学ぶ

願い込め

オリジナルメッセージ付き交通安全たすきと、奥は考案者の内田巡査



【大樹】絵本作家サトシンさんによる講演会「絵本&おててえほんたのしくよみましょー」(町図書館主催)が20日、町生涯学習センターで開かれた。

年1回、絵本作家らを招く大樹、土幌、音更、新得各町図書館の合同企画。今年度は「うんこー」などで知られる佐藤伸(サトシン)さん、新潟市在住のIIが登壇した。

この日は町内外から親子連れら約90人が足を運んだ。サトシンさんの歌を交えながらの力強い読み聞かせに子供たちは大喜び。手のひらを絵本に興で物語を作

【更別】世界品を展示する「一流美術品展」が26日、福祉センター(線93)の2階で開催された。

この日は町内外から親子連れら約90人が足を運んだ。サトシンさんの歌を交えながらの力強い読み聞かせに子供たちは大喜び。手のひらを絵本に興で物語を作



大樹 釣りを通して習性学ぶ